

平成26年第3回北海道議会定例会・決特（第1分科会）開催状況

開催年月日 平成26年11月11日（火）  
 質 疑 者 公明党 吉井 透 委員  
 答 弁 者 環境生活部長 川城 邦彦  
 生物多様性・エコシカ対策担当課長 川勝 富士男  
 自然公園担当課長 増本 弘次

質 疑 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 知床世界自然遺産について</p> <p>北海道には豊かな自然環境が残る地域が数多くありますが、その中でも知床は、原始的な自然環境が残る、数少ない貴重な地域であります。こうしたことから、平成17年に、その自然環境が世界に評価され、人類共通のかけがいのない財産であるとして、世界自然遺産に登録をされています。また、貴重な動植物や知床の山々などの雄大な風景は、知床の魅力として、多くの人々を引きつけており、こうした本道が世界に誇る知床をよりよい形で守り続けていくことが重要であると考えております。そこで、知床世界自然遺産の保全と利用の状況などについて、以下、伺ってまいります。</p> <p>(一) 知床世界自然遺産の保全管理について</p> <p>1 保全管理の状況について</p> <p>はじめに知床世界自然遺産の保全管理についてであります。</p> <p>知床は、山にも海にも多くの動植物が生息するなど、貴重な自然が数多く残っている地域であり、こうした生物の多様性や生態系の価値が認められ、世界自然遺産に登録されたものと承知をしております。</p> <p>この知床の豊かな自然環境を守るため、現在、具体的にどのような取組を進められているのかお伺いをします。</p> <p>2 海域の保全管理について</p> <p>知床には希少種を含む多くの動植物が生息し、豊かな生態系を形成していますが、その中でも、特に流氷や多様な魚類、海棲哺乳類などが作り出す、海洋生態系が高く評価をされています。こうしたことから、道は、平成19年に海域管理計画を策定し、遺産地域の海域の保全管理を進めており、また、昨年3月に計画の改定を行ったと承知をしております。</p> <p>そこで、道として、改定された海域管理計画に基づき、どのように海域の保全管理を進めているのかお伺いをします。</p>	<p>(自然公園担当課長)</p> <p>知床世界自然遺産の保全の取組についてでございますが、知床遺産地域の極めて多様かつ特異な価値を有する自然環境を将来にわたり適正に保全管理していくため、国と道が平成21年に改定しました「知床世界自然遺産地域管理計画」に基づき、国や道、地元自治体をはじめ関係機関との連携のもとで保全管理を進めているところでございます。</p> <p>具体的には、環境省、林野庁、道が事務局となり、斜里町、羅臼町や漁業協同組合など地域の関係団体で構成します「知床世界自然遺産地域連絡会議」において、情報交換や課題の検討を行いますとともに、学識経験者で構成されます「知床世界自然遺産地域科学委員会」から科学的・専門的な助言をいただきながら、関係行政機関、地元自治体、関係団体などが連携・協力しましてエゾシカの食害対策やサケ科魚類の遡上対策など、遺産地域の保全管理に取り組んでいるところでございます。</p> <p>(自然公園担当課長)</p> <p>海域の保全管理についてでございますが、平成17年の世界自然遺産登録を契機として、環境省と北海道は、平成19年12月に遺産地域内海域の保全管理の基本的な考え方や措置などを示しました「知床世界自然遺産地域 多利用型統合的 海域管理計画」を策定し、海域における生態系の保全と安定的な漁業の営みが図られますよう、地元の漁業協同組合などと連携して取組を進めてきたところでございます。</p> <p>その後、平成25年3月には、海域の現状や変化を踏まえ、漁業や観光などが地域社会にもたらす便益を把握するなどの社会経済的評価の導入や、地球温暖化を含む気候変動の兆候の把握について追加するなどの見直しを行い、第2期海域管理計画を策定しまして、サケ科魚類、スケトウダラ、海鳥類</p>

質 疑 要 旨	答 弁 要 旨
<p>3 情報発信について</p> <p>次に情報発信について伺いますが、海域を含む遺産地域の自然環境を保全していくためには、地域の住民の方々の保全管理の取組に対する理解が重要であると考えます。</p> <p>また、観光などで知床を訪れる方々にも保全管理の状況を知っていただくことが知床の価値を守っていくためには必要と考えますが、こうした方々への情報発信はどのように行っているのかお伺いをします。</p> <p>4 今後の保全管理の考え方について</p> <p>今後も世界自然遺産としての価値を維持していくためには、知床の保全管理をしっかりと進めていく必要があると考えますが、道として、どのような考え方で取り組んでいかれるのかお伺いをします。</p> <p>(二) 知床世界自然遺産の利用について</p> <p>価値の維持に努めていただくということで、保全管理大変重要ですので、これをよろしくお願いをしたいと思います。</p> <p>次にそれとは相反する格好になるかと思いますが、知床世界自然遺産の利用についてお伺いをしていきます。</p> <p>知床は、オホーツク海に突き出た地形であり、厳しい気象条件や断崖絶壁が続く海岸線など、人の手が入りづらい地域であったことから、多くの野生生物や手つかずの雄大な風景が残り、道内外の人々を魅了して</p>	<p>など知床の海洋生態系を特徴づける生物のモニタリングを行いますとともに、「科学委員会海域ワーキンググループ」においてモニタリング結果などを踏まえた科学的な助言をいただきながら、国や地元自治体さらには地域の関係団体と連携して保全管理を進めているところでございます。</p> <p>(自然公園担当課長)</p> <p>保全管理に関する情報発信についてでございますが、知床遺産地域の自然環境を適正に保全管理していくためには、日常的に自然遺産に触れる機会の多い地域住民や事業者の方々はもとより、観光客など知床を訪れる方々にも保全管理の状況を知っていただくことは重要なことと考えております。</p> <p>このため、地域連絡会議に漁業協同組合や観光協会などの団体に加え、地元の自治会にも参加していただくほか、科学委員会を地元自治体で開催するなど、地域の方々に広く保全管理の状況をお伝えしているところでございます。</p> <p>また、科学委員会の活動を周知するため「科学委員会ニュースレター」の発行や、世界遺産センターなどの遺産管理施設におけるパネル展示、モニタリングの結果や科学委員会の開催内容など知床世界自然遺産に関するデータを掲載したホームページであります「知床データセンター」などにより保全管理の状況を広く発信しているところでございます。</p> <p>(生物多様性・EJ 対策担当局長)</p> <p>今後の保全管理についてでございますが、知床は、流氷の影響を受けた海と陸の生態系の豊かなつながりや多くの希少種や固有種を含む幅広い生物が生息、生育するといった生物多様性が評価され、世界自然遺産として登録されたものでございます。</p> <p>こうした知床の価値を損なうことがないよう、道では、国、地元自治体や関係団体と連携して、知床の自然環境の変化を把握するための各種モニタリングを実施するとともに、その結果につきまして科学委員会や地域連絡会議の場におきまして検証を行い、エゾシカの食害を防止する柵や防護ネットの設置、また、サケ科魚類の遡上等を促進するための河川工作物の改良など、保全対策を実施してきたところであります。</p> <p>今後におきましても、「知床世界自然遺産地域管理計画」や「第2期海域管理計画」などに基づき、各種モニタリングの実施とその結果に応じまして管理の方法を見直すといった順応的管理を進めることによりまして、世界自然遺産としての価値の維持に努めてまいりたいと考えております。</p>

質 疑 要 旨	答 弁 要 旨
<p>いる場所でもあります。先ほど申し上げたとおり、世界自然遺産としての価値を守るため、知床の自然環境を保全していくことは必要なことでありますが、同時に多くの方々に訪れていただき、知床の素晴らしさを体験していただくことも非常に重要であると考えます。</p> <p>そうしたことも踏まえ、以下伺ってまいります。</p> <p><b>1 観光入込客数について</b> はじめに、観光入込客数の状況についてであります。</p> <p>遺産登録年であった平成17年度は知床を訪れる観光客数が増加したと承知をしておりますが、最近ほどのような状況なのか伺います。</p> <p><b>2 観光利用の状況について</b> 今の答弁で、知床を訪れる人は、遺産登録年をピークに減少傾向が続いてきたが、近年はやや持ち直して横ばいと、外国人については増加しているというふうにお伺いをしました。</p> <p>知床には、知床五湖や知床峠など雄大な風景を楽しむことができる観光地が数多くありますが、近年、知床において観光客の方々は、どのような観光を楽しんでいらっしゃるのか、その状況について伺います。</p> <p><b>3 エコツーリズムについて</b> 手つかずの自然が多く残る知床では、誰もが気軽に原生的な自然に触れることができると思いますが、一方で、人の手が入ることにより、貴重な自然環境が損なわれる可能性もあります。</p> <p>こうしたことから、世界から認められた自然環境を有する知床においては、自然環境の保全に配慮しつつ、豊かな自然環境を体験する「エコツーリズム」の取組が最適な利用の方法と考えますが道の所見を伺います。</p>	<p>(自然公園担当課長) 知床の観光入込客数についてでございますが、遺産登録年であります平成17年度に245万人に達した観光入込客数は、平成22年度は180万人、東日本大震災後の平成23年度には169万人と減少傾向にありましたが、平成24年度には179万人と持ち直し、平成25年度は173万人とほぼ横ばいの状況となったところでございます。</p> <p>一方、知床を訪れる外国人観光客の状況は、遺産登録年である平成17年度は5千人でありましたが、徐々に増加し、平成23年度は1万1千人に達し、平成24年度は2万4千人、平成25年度には2万7千人と大幅に増加しているところでございます。</p> <p>(自然公園担当課長) 観光利用の状況についてでございますが、知床を訪れる観光客の方々は、知床五湖、カムイワッカ湯の滝、知床峠といった知床を代表する観光地を訪れ、知床の雄大な自然を楽しんでおります。</p> <p>一方、近年、こういった従来からの知床を代表します各所を周遊するだけではなく、観光船によるホエールウォッチングやバードウォッチング、また、海から知床の雄大な自然を観察することができるシーカヤックなどの海洋レクリエーション、さらには、日本百名山の一つである羅臼岳登山や専門ガイドが案内するトレッキングなど、個人やグループで知床の雄大な自然に触れて楽しむ体験型の観光が増加するなど観光利用の形態が多様化してきているところでございます。</p> <p>(生物多様性・Eg 対策担当局長) エコツーリズムについてであります。知床における自然環境を保全し、その価値を向上しながら自然を体験していただくため、平成17年度に策定しました「エコツーリズム推進計画」に基づき、利用に当たって守るべきルールや心得を定めまして、その普及に取り組んできたところであります。</p> <p>こうした中、近年、特定の場所への観光利用の集中や野生動物との軋轢など新たな課題への対応が求められてきましたことから、これらに対応するため、環境省や道などの関係行政機関、地域の観光協会やガイド協議会などの関係団体、さらには学識経験者により構成されます「知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議」におきまして、知床における観光利用の基本方針となります「知床エコツーリズム戦略」が、平成25年3月に策定されたところであります。</p> <p>道といたしましては、知床は四季を通じて豊かな自然環境を楽しむことのできる地域であり、こうした自然環境を活かすエコツーリズムは、知床における観光の重要な要素であると認識しておりまして、エコツーリズム検討会議を通じまして、国や地</p>

質 疑 要 旨	答 弁 要 旨
<p>4 知床エコツアーリズム戦略について</p> <p>無秩序な利用は、自然環境に影響を与え、地域の魅力を損なっていくことが懸念され、特に世界自然遺産である知床においては、しっかりとした目的や手段などにより適正な利用が強く求められるものと考えます。</p> <p>こうしたことを背景に、国や道から成る検討会議において、昨年、「知床エコツアーリズム戦略」が策定されたものと承知をしておりますが、この戦略により、具体的にどのような取組を進めていらっしゃるのかお伺いをします。</p>	<p>域と連携しながら、知床の自然環境を活かすエコツアーリズムの展開を図ってまいりたいと考えております。</p> <p>(自然公園担当課長)</p> <p>戦略に関する具体的な取組についてでございますが、知床エコツアーリズム戦略においては、知床を訪れる観光客に知床らしい良質な自然体験を提供するため、新たな観光メニューの提案・協議の際の視点や具体的な方策などを定めており、戦略の策定以降、地域から様々な事業の提案が行われてきたところでございます。</p> <p>具体的には、観光客などによるヒグマへの餌やり行為を防止し、野生動物との共存を図ることを目的としました「知床ヒグマえさやり禁止キャンペーン」事業や、知床半島先端部における漁業の歴史・文化を学ぶことを目的としました「知床岬赤岩地区羅臼コンブエコツアー」事業など、知床の自然環境を活かした新たな事業が地域主体で企画・提案され、エコツアーリズム検討会議における協議・承認を経て、実施されたところでございます。</p>
<p>5 今後の利用の考え方について</p> <p>野生動物との共存を図るような取組を行ってこられたということでありませけれども、知床の貴重な自然環境に十分配慮しながら、多くの方々に知床を訪れていただき、その素晴らしさを知っていただくことは、人類の共通の財産でもある自然遺産の魅力の向上につながることであり、また、地域にとっても様々な波及効果もたらされるものと考えます。</p> <p>こうしたことを踏まえ、今後、道として、どのように知床世界自然遺産の利用を進めていくのか、所見をお伺いします。</p>	<p>(生物多様性・EIT 対策担当局長)</p> <p>今後の利用についてでございますが、知床の豊かな自然環境を適正に保全管理しますとともに、多くの方々に知床の良質な自然を見て、触れて、感じていただき、知床の魅力を知っていただきますことは大変重要であると考えております。</p> <p>このため道といたしましては、知床の魅力や利用に当たったのルールやマナーにつきまして、引き続き、ホームページや啓発チラシ、さらにはパネル展の実施などにより発信してまいりますとともに、国や地元自治体などと連携しまして「知床エコツアーリズム戦略」の積極的な推進を図り、知床の価値を活かした利用を進める地元関係団体などからの提案事業の検討や実施に積極的に参加するなど協力・支援を進めてまいりたいと考えております。</p>
<p>5- (再) 今後の利用の考え方について</p> <p>先ほど申し上げましたとおり、知床を訪れる観光客は、遺産登録年にピークを迎えた後、減少傾向が続く、特に冬期間の観光客は、落ち込みが厳しい状況にあります。</p> <p>そうした中で、今年度、地元の観光協会からの要請を受け、知床五湖へ至る道道のうち、これまで除雪を行っていない区間を網走建設管理部が試験的に除雪を行い、観光協会が中心となって自然ガイドの運転する送迎車両によるエコツアーの取組を行う予定であると伺っております。</p> <p>これまで、冬期間、観光客が知床五湖を訪れることができませんでしたが、この取組によって、外国人観光客などに、冬の知床を実際に感じてもらうことができ、観光客増加にもつながるなど、様々な効果が期待されるものと考えます。</p> <p>知床の自然環境にも配慮しながら、環境生活部が関係部局と連携を図り、新たな取組を展開して、こうした地元の取組を後押ししてはどうかと考えますが、所見をお伺いをします。</p>	<p>(生物多様性・EIT 対策担当局長)</p> <p>今後の利用の考え方についてでございますが、地元の観光協会などから提案のありました「厳冬期の知床五湖エコツアー」事業につきましては、エコツアーリズム戦略に基づき、7月に開催されました検討会議におきまして事業実施が承認されたところであります。</p> <p>その後、10月に国や道、地元自治体さらには観光協会などの関係団体により「知床五湖冬期適正利用協議会」が設置され、来年1月の実施に向けた準備が進められているところでございます。</p> <p>道といたしましては、この戦略に基づき提案のありました事業につきまして、地域の関係者とともに内容の検討や事業の実施を進めてきたところであり、今後とも、地域が連携して知床の自然環境の適正な利用を図る各種エコツアー事業の提案を協議する検討会議に関係部局にも参加を求めるなど連携を図りながら、積極的に協力・支援を進めてまいりたいと考えております。</p>

質 疑 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(三) 知床国立公園50周年・世界遺産10周年記念について</p> <p>ご答弁をいただきましたが、こうした冬の取組というのは非常に大事だと思いますので、しっかりとお願いをしたいと思えます。</p> <p>次に、知床は昭和39年に国立公園に指定され、今年で50周年を迎えたとともに、平成17年に世界自然遺産に登録されたことから、来年、10周年を迎えることになります。これまで、地元の関係者ばかりでなく様々な方々の努力により、しっかりと貴重な自然環境が守り続けられたからこそ、この節目の年を迎えることができたものと考えます。そこで、これらの周年記念の取組について伺います。</p> <p>1 道の取組について</p> <p>まず、今年、来年と節目の年を迎え、地元ばかりでなく、道民にとっても非常に喜ばしいことであると考えますが、道として、どのような周年記念の取組を進めてきたのかお伺いをします。</p> <p>2 今後の取組について</p> <p>節目の年に、今までを振り返り、さらに将来の知床を考えていくことや、こうした取組を広く発信していくことは、世界自然遺産として次の世代に引き継いでいくために、大変重要なことであると考えます。来年7月までの周年記念期間の中で、さらに知床の魅力を発信する取組を進めていく必要があると思えますが、今後、道として、どのような取組を進められるのかお伺いをします。</p>	<p>(自然公園担当課長)</p> <p>周年記念に係る道の取組についてでございますが、道では、周年記念の節目の年を迎え、世界から評価された知床の自然環境を守り続けていくためにも、知床の持つ価値や保全の意義を再認識するとともに、あらためて知床の魅力を広く発信していく必要があると考えております。</p> <p>このため、国や道、地元自治体で構成する「周年事業連絡調整会議」を設置し、平成26年6月から平成27年7月までを周年記念期間として、事業の企画、実施を進めてきたところでございます。</p> <p>これまで、6月の周年事業開始式を皮切りに、シンポジウム、自然観察会などのキックオフイベントの実施、地元や札幌市内においての周年記念パネル展の開催、さらに国立公園50周年記念シンポジウムの開催など、様々な事業を実施するとともに、特設ホームページの開設、ポスター、イベントガイドなどの啓発用資材の作成・配布、新聞や広報誌などを利用しました広報活動といった情報発信についても実施してきたところでございます。</p> <p>さらに、地域のお祭りやイベントなどをパートナーシップ事業と位置づけ、イベント開催時において周年記念の周知を行うなど、地域と連携して取組を進めてきたところでございます。</p> <p>(生物多様性・EPA対策担当局長)</p> <p>周年記念の今後の取組についてでございますが、来年の7月までの間、世界遺産10周年記念式典や子どもたちによります自然体験活動、さらには地元ばかりでなく札幌市など各地で実施します移動パネル展の開催など、関係機関や地域との役割分担の下、連携協力しながら取組を進めてまいる考えであります。</p> <p>また、啓発資材を利用しました観光関連施設などへの広報活動のほか、新聞やメールマガジンなど各種広報媒体や職員名刺に周年記念ロゴマークを印刷し周年記念をPRするなど、情報の発信につきましても様々な取組を進めてまいる考えでございます。</p> <p>道といたしましては、引き続き、「周年事業連絡調整会議」の場を通じまして、関係機関との連絡調整を図りながら、連携して各種記念事業の実施や情報発信を進めていくこととしていくところでございます。</p>

質 疑 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(四) 今後の保全と利用のあり方について  節目の情報発信というのは大変に重要であるというふうを考えておりますので、これしっかりお願いをしたいと思えます。</p> <p>これまで知床世界自然遺産について様々な点から伺ってまいりましたが、世界自然遺産の価値を守るため、地域が一体となって、保全管理や利用を進めてきたことは、高く評価されるものと考えております。また先ほど申し上げたとおり、今年、来年と節目の年を迎えますが、世界の宝でもある自然遺産として未来に引き継いでいくためには、今後も、保全と利用の両面から、しっかりとした取組を展開する必要があると考えます。道の所見を最後に伺います。</p> <p>部長から、保全管理と適正な取組を着実に進める、また、未来へしっかりと財産を引き継いでいくというふうにご答弁をいただきました。</p> <p>魅力ある北海道ですけれども、特に冬期間はどうしても厳しい運営をしている、いろいろな施設、特に地方の施設が多いというふうに私は感じています。</p> <p>冬の自然は積雪では、例えばやぶこぎであるとか、夏ではできないそうしたツアーやコースも可能になることもあると、非常に違う視点から見られることが多くなると思えます。</p> <p>特に知床は世界自然遺産でありますので、厳冬期をはじめとして四季を通じてそれぞれの魅力を発信することが大事ではないかというふうに思いますので、この点強くお願いを申し上げて私の質問を終わります。</p>	<p>(環境生活部長)</p> <p>今後の保全と利用のあり方についてでございますが、世界から認められた知床の自然環境を守り、多くの方々にその素晴らしさを体験し、理解していただくことは、大変重要であると認識しておりまして、地域連絡会議やエコツーリズム検討会議など地域との連携の場を通じまして、保全管理と適正な利用を進めてきたところでございます。</p> <p>そのような中、知床は周年記念という節目の年を迎えましたことから、あらためて知床の価値を見直し、地域の方々と一緒に、その素晴らしさを再認識し、道内外に広くその価値を発信いたしますとともに、引き続き、国や地元自治体、さらには関係団体や学識経験者などと課題や情報の共有を図りながら保全管理と適正な利用の取組を着実に進めまして、かけがえのない財産である知床を未来に引き継いでいきたいと考えております。</p>